



SNSでのつながり 増加する出会いのリスク

「ネットの出会い その人は誰？」

① このゲームのイベント、行ってみたいなあ。

イベント行きたいけどひとりじゃいけないなあ。
SNSに投稿…と

② あ、誰かからメッセージが届いた

びよりん
よかったらいっしょに行きませんか？

③ なんだか気があうんだ。楽しいなあ。

私もそのキャラだいき！
かわいいよね！

④ これはきつといい出会い。会いにいくてもいいよね？

私は高校生なんだ！写真送るね〜。イベント楽しみー！
びよりん

SNSでの18歳未満の被害者はスマートフォンの利用率が増えている中学生が847人(前年比223人増)と大幅に増加しています。

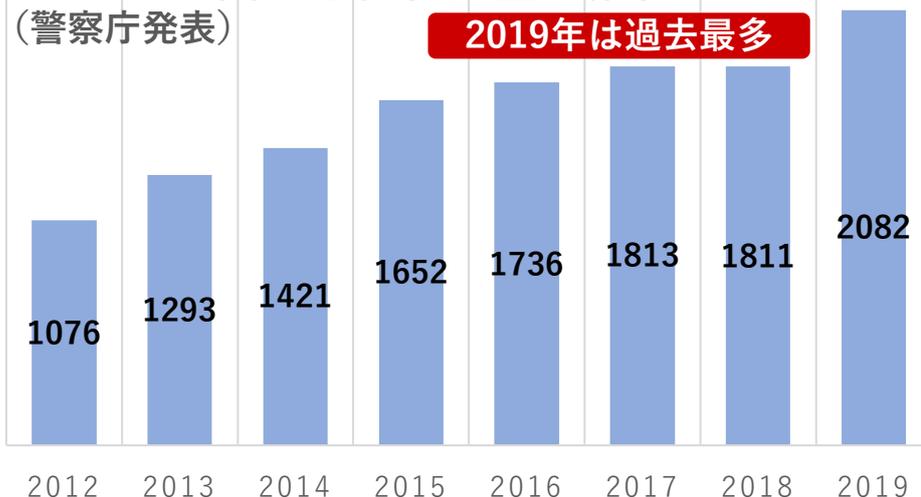
内訳は、みだらな性行為を禁じた青少年保護育成条例違反が最多の844人。被害の大半がスマートフォンを利用したもので、有害サイトの閲覧を制限するフィルタリングを利用していた割合は13.5%にとどまっています。

青少年にスマートフォンなどをさせるときは、フィルタリングをかけることが法令で決められています。フィルタリングについて分からないときは事業者にご相談下さい。



SNSに起因する被害児童数推移

(警察庁発表)



内訳(2019)

小学生 72人 中学生 847人

高校生 1044人 その他 119人

前年比271人増

子どものゲームやスマホの使いすぎに悩む 保護者へのアドバイス

■ 生活の中の3つの工夫

1. 役割の提供

スマホやゲームに依存する子どもには、現実世界で充実感や自己肯定感を得られていない場合が多いそうです。

家庭内で役割を担当してもらい「助かったよ」「ありがとう」などの声かけを行ってみましょう。



2. I & Youメッセージ

子どもを心配して口にした言葉が「また説教か」と誤解されることがしばしば起こります。「私はこう思っている、こうしてほしい(Iメッセージ)」「あなたはどう思っている? どうしたい?(Youメッセージ)」を活用して、指示や命令、決めつけにならないことを心がけましょう。

3. 「取り上げ」は見極めが必要

取り上げは一時的な解決にしかならないケースも多く、一般的には推奨されません。逆上したり暴力をふるい始めたりするケースもあります。身についた生活習慣はすぐに変えられないこともあるため、少しずつ上向いていく事を目指しながら辛抱強く取り組みましょう。

■ ルールづくり 家族全員が触らない時間をもつ

家族全員が協力してスマホを触らない時間を作ることをおすすめします。自分は制限されるのに他の家族は無制限に使っている状態では子どもも納得できないでしょう。

また、ルールを決める時に一方的にルールを押しつけてしまうのは反発心が芽生えることがあります。子どもと話しあいながら家族共通のルールを作っていきましょう。



■ 「スマホ、ゲームに没頭する理由」を理解しましょう

スマホやゲームに没頭する理由として「楽しいから」以外の理由が潜んでいる場合があります。例えば以下のような理由です。

1. ゲームをしないことが不安

ゲームをしないことで起こる結果(今日のゲームの特典が手に入らない、友達の話に乗り遅れる等)が受け入れられない。

2. 現実からの逃避

ゲームをすることで現実世界のストレスから逃れたい。考えたくない。



利用制限などのルールを決めても根本の問題が解決しなければ効果がありません。子どもと対話しながら、生活に支障が出るほどにゲームを続けてしまう理由を探してみましょう。